



2022年（令和4年）
5月号（No. 924）

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目次

芦生の里からのメッセージ	
『芦生原生林今昔物語』を上梓して … 1	
さんけん通信 …… 4	
「2021植村直己冒険賞」は南極単独横断に挑戦の阿部雅龍さんに …… 5	
灯台下暗し、四十余年	
一品川宿に眠るある女性登山家 … 6	
追悼 奥井清・副支部長の急逝を悼む … 8	
若松林治さんを偲ぶ …… 9	
連載 ■ ご当地アルプス登山案内	
⑨宇都宮アルプス …… 10	
⑩日立アルプス …… 11	
新入会員 …… 13	
Climbing&Medicine・89 …… 14	
東西南北 …… 15	
図書紹介 …… 16	
会務報告 …… 17	
第76回ウェストン祭開催お知らせ … 17	
ルーム日誌 …… 18	
会員異動 …… 18	
INFORMATION …… 18	
編集後記 …… 19	

▶ 日本山岳会事務（含図書室）取扱時間
月・火・木 …… 10～20時
水・金 …… 13～20時
第2、第4土曜日 …… 閉室
第1、第3、第5土曜日 …… 10～18時

芦生の里からのメッセージ 『芦生原生林今昔物語』を上梓して

渡辺弘之

京都府北西部、南丹市美山町に位置し、由良川源流に広がる芦生の森は、ブナをはじめとする多様な森林と動植物の豊かさで登山者やナチュラリストたちに知られている。京大芦生演習林に勤務、50年にわたって芦生の森の移り変わりを見続けてきた渡辺先生に、自然の宝庫であるこの森の来し方行く末を綴っていただいた。

「植物ヲ學ブモノハ芦生演習林ヲ見ルベシ」

近畿地方以外の方にはなじみが少ないかも知れないが、京都府の日本海側、舞鶴と宮津の間に注ぐ由良川の源流が芦生^{あしう}原生林である。現・南丹市美山町芦生、福井・滋賀県境に接する京都府側で、境界をなす三国岳（959m）が近江・丹波・山城の境界、三国峠（776m）が若狭・近江・丹波の境界であ

る。京都府下には標高1000mを超える山はなく、三国岳が京都府第3位の高さを持つ。戦前には森本次男『京都北山と丹波高原』（朋文堂、1938年）、住友山岳会『近畿の山と谷』（朋文堂、1941年）などで注目され始めていたが、戦争で登山どころではなくなった。戦後、森本次男『京都北山と丹波高原』（山と溪谷社、1965年）、金久昌業『京都北山』

（昭文社、1970年）などでルーツが紹介され、芦生に京都府「芦生山の家」が開設されるなどで、多くの登山者が訪れるようになった。この地域は「芦生原生林」としてよりも「京大演習林（研究林）」と呼ばれることが多い。由良川源流の中核地域が京都大学農学部付属演習林（2003年にフィールド科学教育研究センター芦生研究林に名称変更された）だったからである、大正10（1921）年、旧・知井村九ヶ字財産区所有の山林4200haを99年間の地上権設定で借りたのである。京都大学に新設される林学科の実習・教育のためであった。契約は極めて簡単なもので、99年間に全てを伐り、新植して返す、得られた収益は折半するというものであった。2020年

が契約期限であった。戦争もなく契約通りに経過しておれば、原生林はきれいに消えていたということである。幸いというべきか、戦争での事業中断などで原生林は残った。演習林設置後、この地域の動植物相が研究され、豊かな自然、分布上貴重な植物がたくさんあることが次第に明らかになった。東大理学部教授で、のちに科学博物館長をされた中井猛之進博士は芦生を訪れた後、「植物ヲ學ブモノハ一度ハ京大ノ芦生演習林ヲ見ルベシ」と『植物研究雑誌』（17巻5号、1941年）で報告し、ここにあるテンナンショウを新種アシウテンナンショウ、また、日本海型のスギを変種アシウスギと命名した。その後、アザミの新種アシウアザ



京都大学芦生研究林(元・演習林)の入り口

ミが記載された。林内で発見されたニッコウキスゲ(ゼンテイカ)は、分布の南限とされている。

6年間、大好きな芦生暮らし

1961年、私は京大大学院農学研究科に入学して、研究テーマを「森林の土壌動物の落葉分解・土壌耕耘への働き」として、5年間、ここへ何度も通った。といっても、交通不便な場所です、毎日新聞社『日本の秘境』（秋元書房、1961年）、『全国秘境ガイド』（日本交通公社、1967年）で「秘境」とされた所である。バスの終点・田歌から約8kmを歩かないといけなかったし、林内もまだ林道はな

く、長治谷小屋まで約20kmを歩いた。同時に、大学院生として毎年の学部学生の樹木・造林実習にも同行し、毎晩の試験用の樹木のサンプル作りなどした。

1966年、芦生演習林へ助手で行かないか、と聞かれた。大好きだった芦生へ住み、給料をもらって研究ができると、「行きます」と即答した。1972年までの6年間、ここへ助手として常駐したのである。雪深い所で、最深積雪は2mにもなった。動物にも興味があった。当時は、クマがスギ・ヒノキの樹皮を剥ぐ「クマ剥ぎ」被害がひどかったときで、クマ剥ぎの実態などを調べた。

幻となった芦生ダム建設計画

赴任してすぐのこと、最上流の上谷を独りで歩いていたら、原生林のブナ・ミズナラに真新しい刻印が打ってある。樹木を伐採するとき、検査したもの・盗伐ではないと証明するものであった。林道の終点からも遠い、最上流のことである。事務所で確かめると、上谷に若狭の原発群と連動した関西電力の揚水式ダム建設計画があることを知った。気がつくとも連日、関

電のジープが入林していた。ダムが造れるかどうかを調査しているというので、入林の拒否はできなかったようだ。ダムの完成・貯水までには10年という年数は必要だったであろうが、水没させてはもつたいない、ダム湖に沈むまでに樹木をどうやって搬出するか考えないといけないが、ダムができる前提で早々と伐採計画を作るのは早過ぎるのでは、と反対した。

学術的にも貴重な原生林だ、とも主張したのだが、ここは原生林ではないとか、京大は地上権だけ九ヶ字財産区所有の土地を借り、契約を実行しているだけ、毎年、収益を上げないといけないのだと、私の行動に様々な注意を受けた。1970年に出版した『京都の秘境・芦生』（ナカニシヤ書店）で、芦生でダム計画が進んでいる、原生林が消える、と訴えた。

京都大学には著名な生態学者がたくさんいる、原生林の保存にはこれら先生方の支援・理解が得られると思ったが、原生林の貴重さは理解してもらっても、地上権設定での借地、収益を折半している実情から、契約は無視できず、京大も簡単にはダム建設を拒否でき



上谷の支流、野田畑谷のトチノキ林。トチの実や蜂蜜採集のため

なかったはずであった。

当時、地元美山町は町長を中心に固定資産税収入、観光開発での地域振興のチャンスだとして、ダム誘致大賛成であった。どこの集落も少子高齢化・過疎化が進んでいる時代であった。

土地所有者である九ヶ字の全集落が賛成していたなら、ダム計画は確実に進んだであろうが、地元芦生の集落だけがダム建設反対であった。美山町長は京大が原生林の学術的価値を持ち出したとき、99年の契約終了時には全て新植して返すということになっているのに、70年も過ぎて原生林が残っているのは契約を守っていない、契



針葉樹の樹幹下部の樹皮を剥ぐ「クマ剥ぎ」の被害跡(スギ)

約不履行だと、契約破棄・即時返還を求め裁判さえ起こしたのである。しかし、自然保護思想の高まりを背景に、様々な団体によるダム反対声明・支持の中、京大もほかのサイトの変更を提示したが、最終的にはダム建設不許可の通告をした。京大の演習林になったことで原生林が残った。逆に契約上、伐採を続けたのだから、原生林消失に加担したとも言えよう。さらに、その上にダム建設計画である。これも実現しておれば、源流域はダム湖に沈んでいた。数奇な運命をたどったのである。

芦生原生林あつての国定公園

近畿地方では、ブナ林で面積的にも大きいのは大台ヶ原と芦生であるが、大台ヶ原は太平洋型のブ

ナ林、芦生は日本海型のブナ林である。比べてみれば、ブナの葉の大きさが違う。原生林は池内紀『日本の森を歩く』(山と溪谷社、2001年)、福嶋司『いつまでも残しておきたい日本の森』(リヨン社、2005年)、日本の森制作委員会・編『日本の森ガイド50選』(山と溪谷社、2002年)、全国大学演習林協議会・編『森へゆこう大学の森へのいざない』(丸善、1996年)などでも紹介された。私も『由良川源流芦生原生林生物誌』(ナカニシヤ出版、2008年)で芦生原生林の自然を紹介した。

1983年には朝日新聞社・森林文化協会によって「日本自然百選」に選ばれ、日本昆虫学会の「昆虫類多様性保護のための重要地域」、京都府レッドデータブックで

の「地域生態系保存地区」、日本蘚苔学会「日本の貴重なコケの森」などの指定を受けている。2016年には、丹波高原国定公園の中核地域(第一種特別地域)に指定された。芦

生原生林が存在しなければ、国定公園の指定はなかったのである。2020年、99年の契約期限が来て、新しく30年間の再契約ができた。しかし、森林の研究に30年は短か過ぎる。研究教育の場として、京都大学もさらに借用を続けたいし、土地所有者の九ヶ字財産区管理会も国定公園の中核地域に指定されたことから、ここが貴重な森林であることは理解している。しかし、4200haの貸与に對しそれなりの使用料は欲しい。京都大学も財政が厳しくなる中、相應の金額を払っている。その維持にはそれなりの苦勞をしているはずだ。

集落と原生林の共存共栄を

芦生の自然、山と溪谷のすばらしさを知って欲しいとお勧めしているのだが、訪問されてちよつとご不満・不自由を感じられるかも知れない。すなわち、ここが国定公園中核地域であることと、京都大学が学術研究のために管理する研究林であることだ。車の乗り入れは禁止されているし、遭難事故も多いことから一人での入林も禁止され、入林届も必要である。ダ

ム建設を断つたため、地元への経済的支援として、入林は「美山文化村河鹿荘」と「芦生山の家」のマイクロボスでのみ、それもガイド同行での入林許可になっている。歩けるのも最上流の上谷・下谷に制限されている。原生林保護と調査研究への邪魔にならないよう、これは協力するしかない。

『芦生原生林今昔物語 京都大学芦生演習林から研究林へ』(あつぷる社、2021年)では、芦生原生林が運良く残された歴史と、京都大学の利用が30年延長されたことは原生林にとって喜ばしいことだが、30年という期間は短か過ぎると、将来に心配が残ることを述べた。大学院学生として入林し、助手として6年間常駐し、その後も芦生との関係を50年間にわたって保ってきた私にしか書けなかったことだった、と思っている。

(農学博士、京都大学名誉教授)



『芦生原生林今昔物語』の書影

さんけん通信

上高地の歳時記 春・夏・秋

山田和人

上高地山岳研究所(山研)の山田です。管理人の任に就いて3シーズン目となりました。春・夏・秋を実際に過ごして感じたことを綴ってみます。なお、山研のロケーションや詳しい利用方法などは、「さんけんブログ」(<https://jac-sanken.blogspot.com/>)をご覧ください。

上高地は4月27日に開山祭、11月15日に閉山祭を行いますが、山研はそれに前後して小屋開け(開所)、小屋閉め(閉所)を実施しています。今年の開山祭は、当日未明の大雨により上高地に向かう県道で土砂崩落が発生し、中止となっていました。

小屋開け直後のゴールデンウィ



ストーブを囲んで「炉辺山話」も楽し

ようか。山研のバルコニー下は、ニリンソウの白で埋め尽くされています。このところは昼間の気温も上がり、河畔のヤナギが次々と柳絮(綿毛)の種を飛ばし始めます。上高地が目を見ました!

と感ぜられる時季です。

梅雨に入ると樹々の緑が落ち着き、暖かな雨に包まれ、高山は残雪の季節となります。晴れ間に見上げる山々の斜面では、新緑が日に日に這い上がっていく様子が見られます。しかし、雨は穏やかなときばかりでなく、激しい豪雨となつて奥飛騨方面から上高地を襲うことがあります。2020年の7月豪雨では約1週間、道路が不通となり、上高地と下界の往来が断たれました。

梅雨が明けると穂高の稜線は黒々と輝き、谷間の雪が手招きしてくれます。7月下旬から8月にかけての暑い時期も、上高地ではほとんど汗をかくことはありません。このころ上高地では夏の花々が次々と咲きますが、西穂や岳沢、前穂に登っていくと見事なお花畑が広がります。お花畑も年による変化があるようで、昨夏はコバイケイソウが特に目立っていました。8月下旬は、青や紫の花がにぎやかです。9月に入っても気温の変化はあまり感じられないのですが、道端には少し控えめな秋の花々が咲いて目を楽しませてくれます。9月下旬になると、シラカ

バやダケカンバの黄色い葉が、ときどき遊歩道に落ちてくるのに気付きます。

10月に入ると、広葉樹の葉が日に日に色付いていきます。ただし、針葉樹が優占する上高地は、紅葉が広がる景色にはなりません。目の覚めるような紅葉に出会いたいのなら、9月下旬に岳沢や涸沢まで登ることになります。そして、10月中旬になると気温も下がり、冷たい雨の日の翌日は穂高の稜線が冠雪します。このときに宿泊した人たちは、大喜びでカメラやスケッチブックを持って飛び出していきます。下旬には朝の気温も氷点下の日が多くなり、上高地の平地もうつすら積雪します。山研には薪ストーブがあり、宿泊者がいるときは火を入れます。そして、11月の閉山祭の前には、小屋閉めを行ないます。

昨年・一昨年は、コロナ禍のためシユラフのご持参をお願いしていました。今年は掛け蒲団の提供を再開していますので、気軽に山研をご利用いただけると思います。会員の皆さまのご来訪を、心よりお待ちしております。

(上高地山岳研究所管理人)

NEWS

「2021植村直己冒険賞」は
南極単独横断に挑戦の阿部雅龍さんに

4月22日、東京・市ヶ谷「私学会

館」において、第26回となる「植村直己冒険賞」の記者会見が開かれた。2021年の冒険に対する受賞者は、東京都板橋区の冒険家・阿部雅龍さんに決まった。

阿部さんは、同郷秋田出身の探検家・白瀬轟（1861～1946年）が110年前に南極でたどった人跡未踏の「白瀬ルート」（約1300km）の徒歩横断に単独無補給で挑んだが、1月11日、横断山脈越えの途中でタイムリミット



植村直己さんの巨大パネルの前に立つ阿部雅龍さん

により撤退を余儀なくされた。

2021年11月12日、白瀬が命名した大和雪原から単独徒歩横断をスタート、一路横断山脈を目指した。しかし、ベースキャンプ設営が遅れたことや、想像を絶する巨大なクレバスを迂回させられたり、雪が軟らかく、なかなか歩行距離が延びなかった。おまけにコロナ禍の影響もあり、滞在日数に制限があったことも痛かった。

足掛け18年と1億円の資金、そして人生の全てを懸けてきた冒険も、ついにギブアップとなった。最終到達点は歩行距離780km、高度は1027m地点だった。

残念ながら横断山脈を越えての南極点到達は果たせなかったが、4000m級の山々と巨大なクレバスを越えて進む世界初の試みは高く評価され、再挑戦と今後の活躍を期待しての授賞となった。

受賞コメントで阿部さんは次のように語った。

「2019年にも単独徒歩で南極点に到達（メスナー・ルートに

よる）していますが、一番の夢は、憧れのオリジンである白瀬轟南極探検隊の見果てぬ夢を受け継いで南極点到達です。冒険を志したところからの夢だから、先人の夢を継ぎ、先人たちが見られなかった景色を見たい。人の夢が1世紀以上も受け継がれていくことを証明したいと思います。

今回の受賞は、今後への期待を含めてのものと感じています。また、僕には不釣り合いな大きな賞です。ですから、賞に見合う男になるためにも、年末にまた南極に挑戦します。」

阿部さんの冒険への憧れは、10歳のときから。母親が買ってくれた世界の冒険家や探検家の本がきっかけで、コロンブスやマゼラン、ヘイデンらに混じって、同郷の白瀬轟・南極探検隊長の名前を見付けたからだ。自分は体が弱く、シャイで運動音痴だっただけに、一途に夢を追いつける冒険家たちの姿が、たまらなく眩しく見えたと言う。

秋田大学在学中に冒険家への憧れを思い出し、冒険家・大場満郎さん（第4回植村直己冒険賞受賞者）の「笑って死ねる人生がいい」

という言葉にショックを受けた。大学を休学して大場さんの冒険学校にスタッフとして手伝いに行ったのが、冒険への第一歩だった。

1984年、植村さんがデナリで消息を絶つたとき、阿部さんは2歳。現役の植村さんを見ていないが、大場さんを通じてその影響は受けており、いわば「孫弟子」に当たると言う。植村さんは、純粹に夢に生きた人で、自分にとって憧れであり、眩しい存在である。白瀬―植村―大場と続く系譜に共通するものは、圧倒的な情熱量だ。自分も憧れたように、その意志を語り伝えていくことが使命だと考えている、とのこと。

阿部さんはこの11月、憧れの「白瀬ルート」に再挑戦する。

「今回の遠征は人生最大の挑戦であり、途中撤退という人生最大の失敗だった。だが、失敗から立ち上がることも大事で、学ぶことも多い。その方が素敵ではないか。

南極点に立つたとき、どう感じるか自分でも分からないが、自身自身の感動を多くの人々に伝えたい。だから南極に行く。」

と、阿部さんは力強く結んだ。

（節田重節）

RECOLLECTION

灯台下暗し、四十余年
——品川宿に眠るある女性登山家

小泉 弘

古い話です。

1971年1月、八ヶ岳の阿弥陀岳・北西稜を目指していた私とパートナーは、美濃戸口のバス停で休んでいた、関田美智子さんと矢島信枝さんにばったりお会いして、雪の中を休むたびに顔を合わせて進みました。

翌日、北西稜の核心部。ナイフエッジの岩稜は強まる風雪の中、苦闘を楽しみながら登ったことを今でも覚えています。関田・矢島パーティは、大同心を目指していました。

前年70年の12月に、谷川岳・一ノ倉沢の雪崩で1人、半年後の71年5月に前穂高岳・下又白の氷雨で1人と、立て続けに2人の仲間を失いました。彼らの追悼集を編集して、72年の春、印刷・製本に明るい矢島さんに後を託して、私は4月末にペルー・アンデスへと出発しました。

矢島さんは同じ時期に、関田さ

んをリーダーに凌雪会隊でアラスカ、マツキンリー（現・デナリ）のウェスタン・リブ・ルートを目指していました。

アルパマヨ（ペルー・アンデス）のジョルジュ・コガンと、ナンダ・デヴィ（ガルワール・ヒマラヤ）のロジェ・デュプラが、互いの遠征先から手紙で励まし合ったように、「アンデスとマツキンリーから手紙を出し合いました」と話して別れました。

ワスカランに登頂してワラスの街で休養していた7月末、矢島さんからの便りを受け取るより先に、同時期にワラスに滞在していたブッシュ山の会隊に届いた東京からの手紙で、矢島さんとほか2名が、頂上に向かったまま亡くなったと知らされて、愕然としました。まさか矢島さんが……。

私は9月末、5ヶ月ぶりに帰国。しばらく経って、矢島さんに託した友人2人の追悼集の原稿が、渡したときの包みそのままの姿で、

ドサツと戻ってきたときは、言葉ありませんでした。

それから3年……75年の暮れ、新宿・紀伊国屋書店アドホックで久しぶりに関田さんをお見かけしました。声をお掛けしようか、大変迷いました。

マツキンリーでの事故後、大変辛い立場に在ったことや、遠征が終了して間もないマナスル女性隊での心の痛みも耳にしていましたから、あれこれ考え過ぎて結局、声を掛けずじまいでしたが、このときの逡巡を今でも深く後悔しています。

明けて76年の5月、関田さんはあるうことが穂高連峰・間ノ岳でアイゼンを引つ掛けて、飛驒側に転落して亡くなられてしまいました。

関田さんは心に残る登山家でした。目覚ましい登攀を続けていた田部井淳子さん、今井通子さん、佐宗ルミさん、若山美子さんたち女性クライマーとは少し異なる、存在感のあるアルピニストでありました。

関田さんがお元気でしたら、そ



関田美智子さんのお墓がある南品川の時宗・海蔵寺

の後の女性登山家の世界は少し違った風景になっていたのでは、と思います。

古い話は終り、のはずでしたが……。

2019年の11月、当日本山岳会の月例図書委員会。

この日は議題に入る前に、図書委員の大先輩、越田和男さんの「あのころの図書委員会」と題したお話を伺う時間が設けられました。

越田さんが図書委員になられた60～80年ごろの、今とは随分と異なる書物の香りに包まれたJAC、そして図書委員会のお話は、羨ましくも大変素敵でした。



『山岳』第71・72年(1976・1977)「追悼」欄より

関田美智子(せきた・みちこ)
会員番号5932

- 1939(昭和14)年5月10日 東京・両国に生まれる。
 1962年 東京学芸大学卒業。大学時代は山岳部に所属。
 1963年 エーデルワイス・クラブに入会、鹿島槍ヶ岳や穂高岳、谷川岳などで精力的に登山を続ける。
 1965年 日本山岳会に入会。紹介者は折井健一、坂倉登喜子。日本女子大学大学院入学。
 1966~67年 ネパール・ヒマラヤのトレッキングに。
 1967年 ボリビア・アンデスに遠征、ワイナポトシ、イリマニに登頂。
 1968年 日本女子大学大学院を卒業。東京都立心身障害者福祉センターに勤務。聴能士として難聴児の訓練に当たる。
 1969年 女性だけの山岳同人・凌雪会を創立。
 1972年 アラスカ・マッキンリー南壁に挑むも3人の岳友を失う。
 1974年 ネパール・ヒマラヤ、日本女性マナスル登山隊に参加。
 1976年5月3日 穂高連峰・間ノ岳にて遭難死。享年36。

この小さな頂上からは、子どものころは今のよう高いビル群に遮られることもなく、東は東京湾とその向こうに房総半島が見え、南西には丹沢の山並みの上に本物の富士山3776mが望めました。私の山への憧れの元始体験かも知れません。

ブックデザイナー、図書委員会委員

始めるとは、西穂高岳のことかと心に強く残りました。

去年の命日もお花を供えました。旧東海道の品川宿だった北品川、南品川には数え切れないほどお寺が多いのですが(それも「海」の字を付けた寺が)、両国生まれの関田美智子さんの墓所が、南品川に在るとは思いもしませんでした。

ご健在なら今年83歳。

この5月3日はお墓参りの帰りに、品川神社の高台に、そびえる品川富士(高さ6mほどの可愛い山ですが、一目から九合目まで立派な道標が立っています)の頂上に登って、北西の空遙か遠くに、連休真っ只中の残雪の穂高と、30代の笑顔のままの関田さんを偲びました。

お世話になった亡き吉沢一郎さんをはじめ、大森久雄さんと横山厚夫さんのお顔を思い浮かべながら、自分はこのサロンのような空気に憧れて入会したのだからと、溜め息をつく思いでした。

越田さんがお話の終り近くに漏らされた、「関田美智子さんも図書委員のお仲間でした」というひと言は、深く印象に残りました。おふたりは入会年次、会員番号がごくお近くでした。

1976年版を開いていました。アンデスを一緒に登った戸田直樹君が率いたチャンガバン南西岩稜や、JACのナンダ・デヴィ縦走、さらにアンデス3つの壁やジャヌー北壁の華々しい記録が掲載された号ですが、「追悼」の頁に載っていた関田美智子さんを追悼した文章に目が止まりました。そしてその最後の1行に、まさに飛び上がらんばかりに驚きました。

菩提寺は品川海蔵寺。

えっ、まさか！ 海蔵寺は私の家から歩いてわずか5分。関田さんのお墓がこんな近くに在るとは、

全く夢にも思いませんでした。毎日夕方、散歩している数コースのうちの一つ、週に一度はこの寺の正門前を歩いているのです。私は急いで海蔵寺に跳んで行き、所を尋ねると、本堂の正面に在るお墓を教えてくださいました。

知らなかったとはいえ四十数年間の無礼を心からお詫びして、手を合わせました。そして、改めて5月3日の命日に、お花を持ってお参りしました。

墓石の側面に彫られた、黄泉の世での9文字のお名前。「西山」で



奥井 清(おくい・きよし)
会員番号4999

1929年2月25日 茨城県土浦市に生まれる
1954年3月 明治薬科大学卒業。在学中は山岳部に所属
1956年3月 京都大学薬学部大学院修士課程修了
1956~82年 ㈱中外製薬中央研究所勤務
1982~90年 ㈱日本ルセル勤務
1990年4月 ㈱奥井薬局勤務、現在に至る
2007年8月 日本山岳会復活入会
2007~22年 茨城支部副支部長
2022年4月7日 自宅にて入浴中、93歳で永眠

本年4月9日の当支部の講演会・例会にご出席されなかった事
由が、前々日7日の夕刻に、ご自宅
で入浴中に意識を失われ、永眠さ
れたとのことで、突然のご逝去に出
席者一同、言葉を失ったのである。
ここに改めて副支部長の生前の
ご活躍の一端を回顧したいと思う。
奥井氏は1954年3月に明治
薬科大を卒業され、同年4月に京
大薬学部大学院に進学された。明
治薬科大では山岳部に所属されて

いたことから、京大進学後にA A
C K(京大学士山岳会)への入会を
希望したがかなわず、日本山岳会
へ入会した由であった。
2006年の日本登山医学会に
おいて、評議員の山本良三会員よ
り奥井清氏を紹介され、本会への
復帰入会を勧められたのである。
本会の支部創設の一環として2
007年6月15日に当支部が、栃
木支部に次いで27番目の支部とし
て設立された。21人の会員が参集
の下、支部長に星埜田尚会員(国土
地理院前院長)、副支部長に奥井清
会員が選任されたのである。

奥井清・副支部長の急逝を 悼む

浅野勝己



当支部の活動の3本柱は、毎月
の山行と約2ヶ月ごとの市民公開
講演会、さらに茨城県自閉症協会
協力登山であるが、2017年7
月に創立10周年記念事業、また10
月に第33回全国支部懇談会を開催
し、全国の26支部より約140人
の参集をいただき、盛り上げるこ
とができた。奥井副支部長には筑
波山登山会員への救護医療を担当
していただいた。

ほぼ2ヶ月ごとの講演会・例会
の後、土浦市内の奥井薬局のご自
宅に十数人の会員が集まる。奥井
サロンは、飲食をともに楽しく語
り合う交流の場となり、会員の心
の古里となった。特に酒井國光会
員編著の、創立5周年記念として
出版した『茨城の山事典』の構想は、
このサロンでの討論から誕生した
のである。

次に、年に6回開催してきてい
る市民公開講演会の講師の担当で
あるが、この15年間に総計8回の
話題を提供していただいた。

「免疫化学について抗原と抗体」
「パーキンソン病とその脳科学に
ついて」「ダーウィンの種の起源
と人類の誕生」「ナノテクノロジー
の科学と技術について」「今迄

に分かった宇宙の神秘 神の素粒
子ーヒッグス粒子の発見」「宇宙
は無数にあるのか?」「天文学の
幕開けー重力波の発見」「ブラッ
クホールの初撮影ーノーベル賞級
の快挙」

これら8演題は、かなり専門性
の高いものであるが、一般市民に
分かりやすく解説していただいた
のである。特に2019年4月の
「ブラックホールの世界初の撮影」
では、手を取り合って小躍りした
感激を忘れ得ない。

自閉症者を支援する協力登山の
ため上高地山岳研究所で合宿した
折には、奥井副支部長とともに夜
半に橋の袂(たもと)に集まり、星空を仰い
で天文学の一端をご教示いただく
ことができた。

京大時代の研究生活では、数名
の仲間とともに討論し合う。サロ
ン・サークルが定着しており、こ
れが研究発展の基盤になっていた
と述懐されていた。

この15年間、奥井サロンとし
て知的交流の場を提供していただ
きましたことに、衷心より感謝申
し上げます。

結びに奥井清副支部長のご冥福
を祈念いたします。(茨城支部長)

若松林治さんを偲ぶ

黒田洋一郎

世界7大陸最高峰の一つでオセアニア・ニューギニア島の名山、ジャヤ山(カルステンツ峰、5039m)を、加戸俊広さんとともに訪れる計画をしたことのある山友・若松林治さんが亡くなられた。

彼がジャカルタ滞在中の4年余りに書かれた『インドネシアの山登り』(のんびる舎、1997年)は、日本語ではアルプスやヒマラヤがほとんどだった当時、現地情報による本では、詳しいこと、内容の幅が広いことでも異色だった。『多雨林と火山』(古今書院、1997年)という著書を持ち、インドネシアの自然に詳しい児玉茂氏が、「ジャワには3000m以上の山が12峰あり、全てが火山で、しかもそれぞれに個性的な美しさを持



若松林治(わかまつ・りんじ)

会員番号12187

1939年9月13日 山形県鶴岡市に生まれる

1958年 山形県立鶴岡工業高校を卒業。(株)日野自動車工業に入社、同社山岳部に所属。ビルマ、タイ、インドネシアに駐在、ジャワ島の3000m峰12座全山に登頂

1996年 日本山岳会入会。紹介者は児玉茂、水野勉

2004年 同社を定年退職

2008年 日本三百名山登頂達成

2022年1月23日 逝去、享年81

っている」と帯で推奨した。

日野自動車の駐在員だった彼は、趣味の山登りに熱中された。ジャカルタ日本人会の機関紙に連載されたためもあり、赴任直後からの諸経験、使用人などインドネシア人との付き合い方にも詳しく、後から滞在した人々の参考になった。また、麓に湧く温泉やエーデルワイス状の花の咲く平原にも触れてあり、旅行案内にもなった。

日本人会には「グヌン会」(「グヌン」はインドネシア語で「山」の意)という山登りの懇親会があり、この若松さんの本は、今でもバイブルになっているという。すでにインドネシア語で児玉茂・ココ共著『ジャワ登山案内』が出ており、わずかに12ページだが、その日本語も作られていた。ココさんには、私もジャワの名山巡りや、コモド島などへもガイドしてもらった。

私にとって若松さんは、それまで縁のなかった日本山岳会の集まり、「二火会」を知るきっかけになった人で、後に役立った。若松さんは帰国後、児玉氏の紹介により二火会で「インドネシアの山々」について講演し、その後、私も一緒に二火会に参加するようになった。ある二火会の後の席で、故内田敏子さんと話をしていたら、たまたま「ブラジル最高峰がアマゾンの奥地にあるが、年休だけでは行くのが難しい」と言ったら、内田さんは「あーら、私はネブリナに登りましたよ」と言われ驚いた。彼女の話から、登頂した食虫植物調査隊の隊長・柴田千晶先生と連絡が付き、「私の世界百名山」ネブリナ篇を書くとき助かった。

若松さんは定年後、日本三百名山に挑戦され、79歳で全部登った。三百名山は、カムイエクウチカウシ山など山深く、ヒグマに食われる危険もある難しい山などを含み、山登りが好きだけでは登れない。彼は日野自動車山岳部の部長も務め、現在、地元の高尾山で山のボランティア活動をしている反町良一さんなど、若手山岳部員を育成したのも見逃せない。

会社勤めと山登りを両立させた若松さんは、「なぜ山に登るのか」という問いに「ストレスの溜る日常に対する逃避、気分転換、抵抗、反動? などの心理を楽しんでいた」と答えている。エンジン生産という、合理性が求められる技術業務を長年こなしてきた若松さんらしい。趣味と仕事を両立させた人と言え、私のもう一つの趣味の蝶では、三菱商事の町村忠良さん(遺稿集『南ブラジルの蝶』(1991年)を出版)を思い出す。「ブラジルの蝶」の研究は49歳の若さで終り、本にはならなかった。

その意味でも若松さんは、海外赴任では『インドネシアの山登り』を出版、定年後は三百名山完登を達成したので、町村さんと比較すれば、趣味の世界では良い人生を送ったと言えるだろう。おふたりとも明朗で、人付き合いが良く、好奇心が旺盛だったことは共通で、惜しい方々を亡くした。

若松さんとは結局、ジャヤ山には当時、現地情勢が悪くて行けなかったが、ジャヤ山は「私の世界百名山」候補に入れているので、いずれ行つて眺めるようにしたい。彼の写真とともに。

合掌

宇都宮アルプス

ースとして整備されてきたが、手軽にできる縦走コースとして「宇都宮アルプス」（篠井富屋連峰）の名称で、県内外からの登山者に親しまれている。北から南に榛名山もも、男山、本山、飯盛山、高館山、黒戸山、兜山などの山々が連なるが、登山口も数ヶ所あり、メンバー、行程に合わせた山行が可能である。

なお、登山適期は、低山のため



大網付近からの篠井連峰。左から榛名山、男山、本山、飯盛山

栃木支部
仙石富英

秋から翌年の初夏にかけてが良い。
春先はスギ花粉に注意。

【コースガイド】

ここでは、登山口の「うつのみや」平成記念子どものもり公園―からの7峰縦走コースを紹介するが、一般的な榛名山―飯盛山の周回コースの場合は、公園駐車場に車を置くと便利である。

J R宇都宮駅から関東バスの日光方面行きに乗り、船生街道入り口の一里塚バス停（日本橋から28番目の一里塚とされる）で下車し、日光街道（国道119号）と離れて船生街道を登山口のうつのみや平成記念子どものもり公園まで約2kmを歩く。公園駐車場からまず榛名山を手始めに男山、コース中の最高峰・本山（562m）を登り、南の高館山、兜山經由で中徳次郎登山口へ下るコースを紹介する。

駐車場から園内道路を冒険活動センターへ進み、途中にあるトイレの手前左側の登山道入り口から榛名山に向かう。スギ林を進み、林道

に出でさらに
行く中
篠井登山口

からの林道
と合流し、

涸沢の左脇
を稜線まで

登り、稜線
分岐を右に

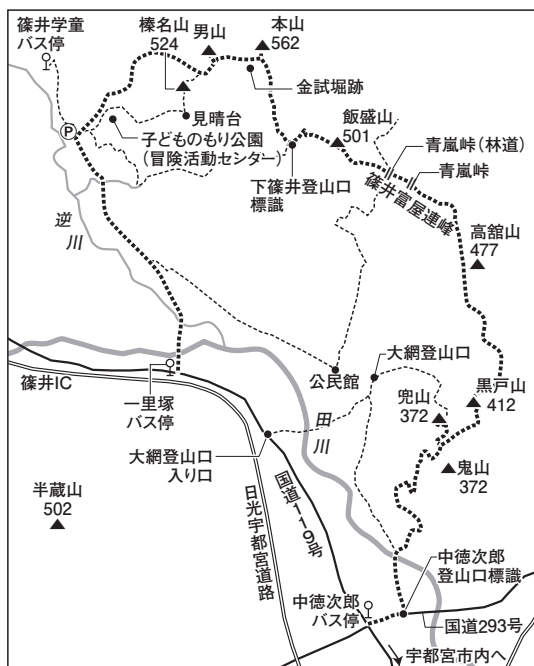
5分ほどで
榛名山山頂

である。男
体山、女峰
によほう

山など日光

方面の展望が得られる。なお、公園内の冒険活動センター管理棟上部から、最短コースで正面の榛名山を目指すコースもある。

山頂から来た道を戻り、先ほどの稜線分岐からわずかな登りで、小さな岩場のピークの男山山頂だたかはら北に高原山、東にコース中最高峰の本山が望める。来た道を稜線の道まで戻り、左に下って鞍部からひと登りし、分岐を左に進むと本山山頂である。コース中で一番の360度の展望が楽しめる。本山北面では、元禄年間に金山が開削され、地元「篠井の金堀唄」が伝わっている。



次の飯盛山へは、再び来た道を分岐まで戻り、左に稜線沿いに下る。下り切った林の中を東に進むと、下篠井登山口(冒險活動センター)に出る道でもある)の標識を過ぎ、送電線鉄塔下から急登すると飯盛山山頂である。雑木に囲まれ展望は良くない。山頂を後に、滑りやすい急な道を下り、大畑林道に出て(林道上は青嵐峠)左に行く。大畑林道口の標識からスギ林に入り、少し進むと青嵐峠の十字路であるが、昔の道を通る人もなく、分りにくい。ここを直進し、なだらかな道を登り、大きな岩の下を抜け、先の方岐を左に登ると、高



本山山頂からの日光連山。左端が男体山

館山山頂だ。平坦で広いが、展望は良くない。

黒戸山へは分岐まで戻り、左に進む。黒戸山山頂は稜線上の目立たないピークだ。兜山には山頂から林の中を下り、林道に出たらここを右に進んで送電線の下を過ぎ、左の作業道に入る。大岩の下を巻いて行くと兜山の山頂だ。標高は低い、樹間から日光方面が望める。下山は林道まで戻り、林道を右に下って行き、中徳次郎登山口に出て、日光街道・徳次郎交差点のすぐ北側にある中徳次郎バス停を目指す。

なお、下山後の見所として、大網登山口付近に二宮尊徳の設計で

知られる二宮堰がある。また、国道119号・徳次郎交差点を西に、国道293号を行くと、「道の駅うつのみやろまんちつく村」の先に「石の里 大谷」などの観光施設がある。

【コースタイム】一里塚バス停(30分)子どもの森(1時間)榛名山(15分)男山(20分)本山(1時間)飯盛山(20分)青嵐峠(25分)高館山(25分)黒戸山(20分)兜山(35分)中徳次郎登山口(10分)中徳次郎バス停

【交通アクセス】往路・復路ともJR宇都宮駅下車。バスはJR宇都宮駅から船生・塩野室行きも利用できるが、本数が少ない。この場合は篠井学童前で下車、子どものもり公園まで徒歩10分。復路のバスは、中徳次郎バス停で乗車。JR宇都宮駅まで約40分。

【参考文献・問合せ先】分県登山ガイド『栃木県の山』(山と溪谷社)、『栃木百名山ガイドブック』改訂新版(下野新聞社)

うつのみや平成記念子どものもり冒険活動センター TEL 028-669-2441

【地図】国土地理院2万5000分の1地形図「下野大沢」「大谷」

連載■ご当地アルプス登山案内10 日立アルプス

茨城県の北東部には、北の福島県側から南延する阿武隈山地が太平洋に沿うように連なっている。鉾山と電機の町として有名な日立市のあたりが、ちょうどこの山地の入り口となり、点在する山々は「日立アルプス」として地域の人々に親しまれている。

南から風神山・真弓山・高鈴山・御岩山・神峰山が連なり、少し東に逸れて羽黒山、その北に石尊山が続く。いずれも低山ながらも素晴らしい眺望を誇り、フォト・スポットも多い。高鈴山付近のハイキングコースは、現在、茨城県が力を入れているプロジェクトである「茨城県北ロングトレイル」の一部にもなっており、新年度の開通を視野に入れたコース整備や道標設置も進められている。

今回は、この日立アルプスの一部であり、かつ茨城県北ロングトレイルの一部でもある、御岩山から高鈴山を中心としたコースを紹介する。積雪の心配があまりなく、いつ歩いても四季折々の低山の表

茨城支部 和田幾久郎

情を楽しめるが、特に眺望が開ける落葉時期の初冬から冬季、また、春の花が咲き誇る3月下旬〜4月を適期として推奨したい。

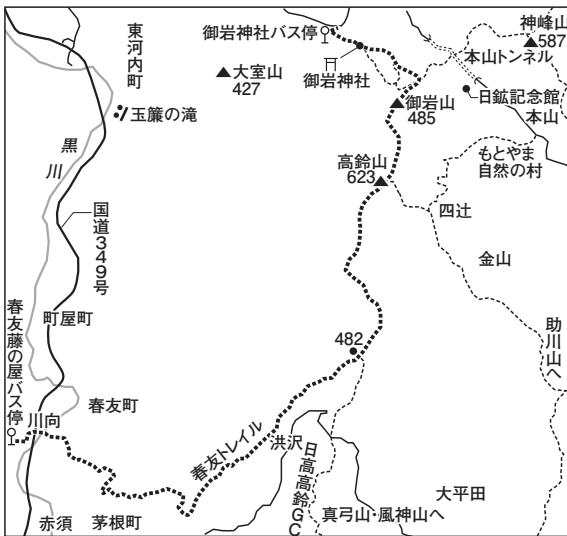
【コースガイド】

JR常磐線・日立駅から東河内方面行きのバスに乗車し、御岩神社前バス停にて下車。降りてすぐの案内板に従って御岩神社の境内へと参拝道を進む。

御岩山周辺は古代より信仰の聖地であつたとされ、日本最古の地



神域にふさわしい荘厳な雰囲気が漂う御岩神社の楼門



誌『常陸国風土記』にも、御岩山の信仰にまつわる記述が見受けられる。篤い信仰の対象として地域の中核を成してきた御岩山の麓に、江戸時代、初代水戸藩主・徳川頼房により、現在にまで至る御岩神社の基礎が創建された。

御岩神社はなんと22柱もの祭神を祀り、さらに御岩山頂にかけて点在する神社が、それぞれ多くの神仏を祀る。御岩山全体では総祭神188柱が祀られ、「日本のほぼすべての神様にお参りできる」パワースポットとして、登山愛好者に限らない人気を集めている。

ただし、ここは神域なので、敬虔な気持ちと登山の心得を忘れずに。

御岩神社拝殿から表裏参道が御岩山頂まで延びている。歩きやすい表参道の最後には、水戸藩の祈願所として代々の藩主が参拝した賀毘禮神宮が奥宮として待ち構えている。一方、裏参道は登りごたえのある急登が続くが、途中で薩都神社中宮に参ることができるといふ。どちらを選んでも参道は山頂直下で合流し、やや迂回路を経て、風土記にない「賀毘禮之高峰」と記された山頂に出る。

莊嚴さすら感じさせる高さのスギなどが密に枝を伸ばし、登山道にはその強固な根が張り巡らされて、複雑な階段のようになってい。足元には十分注意して歩きたい。山頂付近には、宇宙からもその光が見えたという逸話を持つ神秘の石柱や、触れてはいけないとされる力を持った赤い石などがある。また、御岩山自体、日本最古のカンブリア紀層の上にある。

るため、山頂では5億年も前の地層を見ることができる。

雑木がきれいに整理され、眺望も良くなった御岩山から高鈴山へは1・5kmほど、あまり起伏は大きくない道を30分程度登れば到着する。日立アルプスの中心的存在であり、花の山としても有名な高鈴山は、天気の良い日は眺望がすばらしいことから、山頂で休憩を取るハイカーも多い。御岩山が神域のため食事禁止なので、ゆっくりするなら高鈴山頂がお勧め。

高鈴山から南側に3 kmほど下った所にある、日立高鈴ゴルフクラブの分岐を西に進むと、「春友トレイル」と呼ばれ親しまれているコースを2時間ほど歩いて、常陸太田市の「春友彫刻の森公園」に出ることができる。茨城県北ロングトレイルのルートにもなっており途中では、春友大沢の滝の静かな空間や、日立側の街並みとはまた趣を異にした、純朴な里山の風景を楽しむことができる。公園から5分ほどの所に、常陸太田駅行きのバス停がある。

時間がない場合は、高鈴山から南東へと下り、すげがわ助川山市民の森を経て、助川山からの眺望を楽しみ

ながら日立の街に降りると良いだろう。高鈴山頂から下り約2時間程度の歩きで、日立駅へと戻る路線のバス停がある。

【コースタイム】 御岩神社前バス停(10分)御岩神社(30分)御岩山頂(30分)高鈴山頂(1時間20分)日立高鈴GC分岐(2時間)春友彫刻の森公園(5分)春友藤の屋バス停【入山口へのアクセス】 JR常磐線・日立駅から東河内方面行きのバスに乗りし、御岩神社前バス停にて下車。



田中澄江選「花の百名山」の標識が立つ高鈴山山頂

Climbing&Medicine・89

微小の吸血昆虫ヌカカの被害と防御

秦 和寿

深山や溪流歩きをする人はブユに襲われた経験があると思う。ところが、微小でしつこく飛び回り、人を刺すヌカカのことはあまり知られていない。吸血性昆虫のヌカカは発赤と激しい痒みなどの人体被害を及ぼす。虫から被害を受けたとき、種名が分からないと不安になりパニックともなる。ヌカカのことを頭の隅にでも入れておけば、あわてないで対処することができると思う。

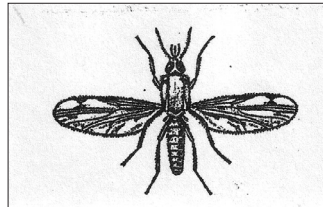
ヌカカは漢字で書けば糠蚊、糠子(ヌカゴ)あるいは浮塵子(フジンシ)だ。地方名も多く、尾瀬の福島県側玄関口、松枝岐ではヌカドオシ、甲州の丹波山村ではムクリと言う。「ムクリ、コクリ、鬼が来る」という古い言葉(広辞苑)がある。ムクリは蒙古、コクリは高句麗で約740年前の元寇を伝え、この場合はどうにもならない虫害に由来する。英名はbiting midgeで蚊、蚋やヌカカをひと括りにしているようだ。

【吸血昆虫ヌカカの生態と防御】

形状／大きさ：成虫で1～2mm程度、糠のように細かいが、翅をよく見ると褐色の斑点がある。幼虫は水生。

種類：国内に約50種。生息場所は種類により山地や溪流、磯辺など異なる。

被害：被害は朝と夕の無風時に多く、皮膚を齧り血を舐める。吸血は雌のみ。刺傷部位の発赤と激しい痛痒が数日間続くが、感染症は媒介しない。発生は種類にもよるが一過性



ヌカカ・イラスト図



蚊柱を横切ったときに複数のヌカカに刺された痕
(写真提供＝野口いづみ)

でもある。

人を刺す主な加害種

- ・シナノヌカカ 北海道から中部山岳地帯などの高地に分布。本種のタイプ標本は上高地で1957年に採取されたものである。発生時期は6月～9月。
- ・ミヤマヌカカ 西日本で6～9月に人を激しく襲う。
- ・ニワトリヌカカ ニワトリを吸血し人にも来る。平地で6月～9月。
- ・イソヌカカ 海沿いの汽水域に生息。磯で人を吸血。

防御：基本は着衣、着帽。顔周りは手拭いで被い防ぐ。顔面用の防虫網などを使う人もいる。忌避剤(成分ディートあるいはイカリジン)の塗布。被害後の処置は市販の虫刺され軟膏の塗布(抗ヒスタミン+副腎皮質ホルモン含有)の塗布。

なお、過去のコラムは次の手順でご覧になれます。ご活用ください。

日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→医療委員会 <http://jac.or.jp/info/iinkai/iinkai.html>

東西南北

N

S

山書を探し求めて

嶋岡 章

今、「山書」いわゆる「山の本」は売れないという。なぜなのか？

戦後間もなく、昭和25年フランス隊のアンナプルナ初登頂、昭和28年イギリス隊のエベレスト初登頂、昭和31年日本山岳会隊のマナスル初登頂、昭和33年AACK隊のチョゴリザ初登頂などに刺激されて第2次登山ブームが起き、登山人口は一気に膨れ上がった。山に登るときは通常、読む(例えばガイドブックや山岳雑誌などの山書を調査)↓計画↓登る(登山の実践)↓書く(記録、報告)というサイクルを繰り返す。この「読む」「計画」「書く」の各ステップには、必ずそこに「思考」が介在する。これがほかのスポーツと大いに異なるところである。このサイクルの初

めに位置するステップ「読む」の対象となる「山書」が大きなウエイトを占めるのは論を待たない。

この「山書」にはガイドブックをはじめ雑誌、紀行、探検記、随筆、小説、詩集、画集、写真集、技術書、史書、会報など多岐にわたるジャンルがある。第2次登山ブームの登山者たちの需要に因って、これらの「山書」が続々と刊行された。登山者たちは「山と溪谷」「岳人」はじめ多くの山岳雑誌や新聞広告などから「山書」の情報を得ていた。また、古書店巡りをすれば戦前に刊行されたいわゆる古典と呼ばれる古書が目白押しだったし、各山岳会の会報でさえ扱われていて入手することができた。そのほか各種山岳図書目録も情報源として大いに利用していた。主なものに、山と溪谷社の登山講座・別巻『山岳事典』(昭和35年刊)、同『世界山岳百科事典』(46年刊)に掲載

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

第24回「秩父宮記念山岳賞」の推薦募集について

秩父宮記念山岳賞審査委員会

第24回「秩父宮記念山岳賞」の推薦(他薦に限る)を次のとおり受け付けます。事務局まで資料をご請求ください。当会のホームページを活用される方は、推薦募集の詳細を掲載しておりますので、推薦要項・所定様式(ダウンロード可能)などをご参照ください。多数のご推薦をお待ちしております。

なお、本賞は公益目的事業でありますから、受賞対象者を本会会員またはグループに限定していません。

- ◎対象分野 登山活動／山岳に関する文化的活動、学術的業績
- ◎提出先 日本山岳会内 秩父宮記念山岳賞事務局
- ◎締切り 令和4年8月31日(水)

された「山岳書一覽」、創文社の『アルプ』189号・206号・213号(48〜50年刊)に連載された「日本山の本」などがあつた。これらの目録で必要な「山書」を探し出し、入手に努めたものである。

昭和45(1970)年以降、戦後のどさくさを脱却し、趣味・趣向も多様化するにしたがい、登山人口は漸減してきた。当然、「山書」の需要も減ってくる。その一方で山岳ツアー会社もたくさん起業し、組織に属さない一般登山者たちが応募するようになる。世界の最高峰エベレストでさえ応募登山が企画されるようになり愕然としたもので

ある。このツアー登山では「読む」↓「計画」のステップが省かれ手軽に登山できるためますます「山書」の需要が減り、「山の本が売れない」ことに拍車を掛けたように思えてならない。なお、近代登山黎明期においても山案内人は存在したが、これは「登る」のステップを補助したに過ぎず、「読む」↓「計画」のステップには関係しなかった。

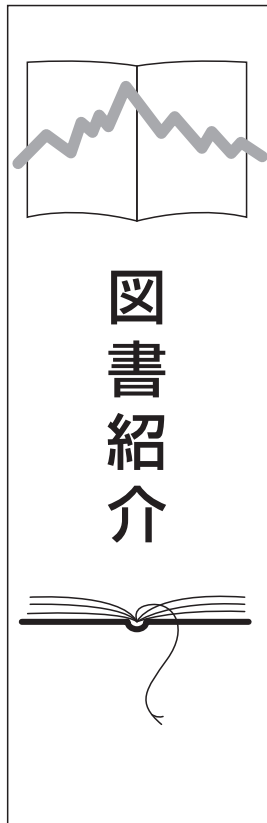
とはいえ、発行部数は減つたものの、「山書」は相変わらず刊行されていて、第2次登山ブームの生き残りの一人である筆者らは相変わらず「山書」を探し求めていた。従来発表されてきた山岳図書リス

トの続編を期待していたところ、『山岳関係図書目録 和書 1975—1987』（日本山書の会91年刊）が誕生した。日本山書の会では、その後も目録編纂作業が続けられていたようで、一昨年末に平成年間に出版された山岳図書の目録を刊行した。新編は『山岳関係図書目録 和書 1988—2018』と追加補訂版からなり、9553点（13268冊）を収録して

いる。編纂に当たり、可能な限り現物の照合調査を行ない、日本山岳会図書室も利用したそうである（入手法などは日本山書の会ホームページを参照のこと）。

これらの図書目録が、山書を探すうえで大いに貢献することは間違いない、筆者らも大いに利用している。また、これらの図書目録が山書購読促進の一助になると期待している。

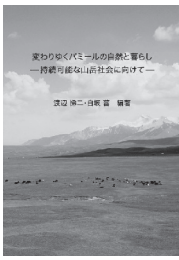
（関西支部会員）



図書紹介

渡辺悌二／白坂 蕃編著

変わりゆくパミールの自然と暮らし — 持続可能な山岳社会に向けて —



2021年10月
ブイツーソリューション
A5判 409頁
3000円＋税

きる日本人は、ほとんどいないといつても過言ではないだろう。編著者が刊行に寄せて冒頭に記したこの言葉に刺激を受け、400ページ以上もの大作を読む意欲が湧いてきた。

確かにそうかも知れない。パミールという名称や、地域の最高峰イスモイル・ソモニ（旧・コミュニケーションズム峰）、レーニン峰などの7000m級の山々のことや、ワハン回

廊などの歴史を感じさせる地名には私たち登山者も馴染み深い、果たしてどんな地域で、どのような人々の暮らしが営まれているのかは知らない。

本書の内容は2005年から10年以上の長期間にわたって、キルギスとタジキスタンを中心に行なわれた現地での調査研究に基づき、専門分野の異なる18人の研究者が多角的に分担執筆したもので、第一部「自然」、第二部「人と牧畜」、第三部「観光開発・資源利用と保護・持続可能な利用」の3部から成る。図や写真も豊富に収録され、分かりやすく充実した内容だ。

個人的にも、定年退職後の二度目の学生生活でお世話になった先生方が執筆者にいらつしやることや、もう30年以上前の話だが、所属している山岳会の仲間たちが、20周年記念登山の対象地として、この地域のゼラフシャン山群を選んだ縁などもあり、親近感を感じつつ読み進むことができた。

第一部では、パミールの概観、地形、氷河をめぐる謎、気候環境と水環境、高山植生の特徴と保全、自然保護地域と自然資源消費、大型哺乳類の生息状況と保護管理の課

題などが解かれており、第二部は、乳文化から見たパミールの位置、パミール北部アライ谷における牧畜、タジキスタン北東部カラクル村における牧畜、協働型日々放牧ゲズーとノバド―その分布と地域の持続可能性におけるその意義、などの言葉が章タイトルに並んでいる。

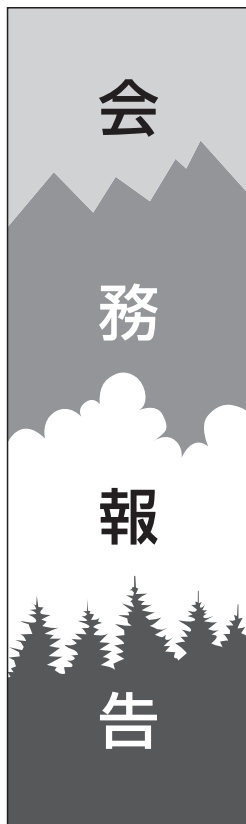
第三部では、キルギスのコミュニティ・ベイズド・ツーリズム、外国人観光客の動向、パミール・アライの地名とその観光利用、キルギス南部アライ谷の農業と生活から見た地域の持続性、タジキスタ

「パミールについて語ることがで

ン・ワハンにおける住民と生業などが語られるが、生態系を活かしたエコツーリズムと、地質を活かしたジオツーリズムを融合させたジオエコツーリズムという新しい概念が、貧困を解消する策として提案されている点が興味深かった。いったん最後まで読み終えても、

私にはパミールを語ることなどとてもできないが、どこまでも広がる草原で、青空のもと伸びやかに連なる雪山から吹き降ろして来る風を感じながら、変わりゆくものと変わってはいけないものを、この目で確かめてみたいと思った。

(久保田賢次)



令和4年度第1回(4月度)理事会 議事録

日時 令和4年4月13(水) 19時00分

場所 集会所およびオンライン

(Zoom)

【出席者】古野会長、坂井・山本各

副会長、柏、南久松、萩原

各常務理事、松原・松田・

清水・飯田・久保田・平川・

川瀬・長島各理事、黒川・

佐野各監事

【欠席者】橋本副会長

【オブザーバー】節田会報編集人

【審議事項】

1・高尾の森づくり寄附金について(南久松) (賛成14、反対0)

2・令和4年度支部特別事業補助金について(松田) (賛成14、反対0)

3・小島烏水祭への助成について(南久松) (賛成14、反対0)

4・福島支部支部長の交代について(柏) (賛成14、反対0)

【協議事項】

1・令和4年度の会議削減について(松田)

【報告事項】

1・正会員20名、準会員11名の入会を承認した旨、報告があった。

(古野)

2・3月分寄附金4件の受入れについて報告があった。(南久松)

3・令和4年度事業計画を内閣府

に提出したことにについて報告があった。(柏)

4・内閣府の立ち入り検査が、6月9日に実施されることについて報告があった。(柏)

5・事務局職員給与について報告があった。(柏)

第76回ウェストン祭開催のお知らせ

昨年、一昨年と2回にわたり新型コロナウイルス感染症の影響により縮小開催を余儀なくされたウェストン祭は、本年第76回を従来の形に戻して開催します。参加される会員は、発熱など体調異常がないことを確認し、マスク着用などコロナ感染予防に協力をお願いします。

【記念山行】

6月4日(土)午前8時30分に上高地バスターミナル集合。島々谷登山道改修中のため、明神から徳本峠を往復します。参加者は自己責任での参加をお願いいたします。

【碑前祭】

6月5日(日)午前10時に上高地

ウェストン広場で開催。日本山岳会会長、来賓のご挨拶、安曇小学校児童による献花、献歌などの式典に続き、特別講演を行います。

【特別講演】

講師Ⅱアルパインクライマー・

平出和也氏

【問合せ先】

日本山岳会信濃支部ウェストン祭実行委員長・古幡開太郎
☎090-116911-0466

✉VEU00522@nifty.ne.jp

*ウェストン祭および特別講演はウェブ配信(ライブ配信のみ)を計画しています。

(信濃支部ウェストン祭実行委員長・古幡開太郎)

- 6・入会案内の増刷について報告があった。(栢)
- 7・期限切れになるビール券(贈答)の換金処理について報告があった。(栢)
- 8・山研国有林使用許可書が林野庁から届いたことについて報告があった。(川瀬)
- 9・登山計画の提出状況について報告があった。(川瀬)
- 10・医療委員会委員長交代について報告があった。(栢)
- 11・福島支部事務局長の交代について報告があった。(栢)
- 12・山岳4団体で登山計画書提出ツール「コンパス」について協議した報告があった。(古野)
- 13・「山」4月号の発行に関する報告があった。(節田)

ルーム目誌 4月

- 1日 「山の日」事業委員会
- 4日 青年部
- 5日 資料映像委員会 スケッチクラブ
- 6日 総務委員会 資料映像委員会
- 7日 山岳地理クラブ 緑爽会
- 12日 フォトクラブ

- 13日 理事会 休山会 山想倶楽部
- 15日 図書委員会
- 20日 会報編集委員会 科学委員会 山岳古道PT アルピニズムクラブ つくも会
- 21日 支部事業委員会 記念事業委員会 学生会 九五会 フォトクラブ
- 22日 記念事業委員会
- 25日 資料映像委員会 青年部 緑爽会
- 26日 資料映像委員会 00会
- 28日 山遊会 4月来至者 152名

会員異動

物故

- 大場攝雄 (3841) 22・1・26
- 北村武彦 (3973) 22・4・1
- 芳野赴夫 (4428) 22・3・31
- 日高健二郎 (4779) 21・2・16
- 中村元次郎 (4969) 22・3・27
- 奥井 清 (4999) 22・4・7
- 遠藤靖彦 (6653) 22・4・17
- 櫻田直克 (12450) 22・4・14

退会

- 静岡大学山岳部紫岳会 (1545) 静岡
- 小野一丸 (4268) 北九州

- エーデルワイス・クラブ(4436)
- 小川幸恵 (6626) 東海
- 吉岡淳一 (10823) 山陰
- 池本喜浩 (11953) 広島
- 大塚栄寿 (12651)
- 高木 弘 (13418) 岩手

INFORMATION

インフォメーション

ATN

- 高木恵美子(13419) 岩手
- 松村竹次郎(16026) 関西
- 澤田信也 (16422) 東海
- 幅下信一 (A0228) 岩手
- 多田洋子 (A0355) 東京多摩
- 大城丈典 (A0361) 山梨

◆科学委員会探索山行のご案内

科学委員会主催の探索山行を開催します。科学委員会のメンバー以外に先着10名様を募集しますので、興味のある方は科学委員会(kagakui@jac.or.jp)に氏名(および会員の場合は会員番号)、性別、生年月日、住所、メールアドレス、自宅電話番号、携帯電話番号、緊急連絡先(氏名および続柄、電話番号)を明記のうえご連絡ください(個人情報保護は、登山計画書以外には使用しません)。

日時 6月25日(土)～26日(日)
集合 6月25日(土) 7時45分新宿
駅西口中央通り「工学院大

学」正面玄関付近 8時新宿駅出発

テーマ 「山と高原のみずうみ」

赤城および奥日光の山岳湖沼群を巡り、山岳湖沼の成因などを探る

講師 中野俊氏(科学委員会委員)、福岡孝昭氏(科学委員会委員)

宿泊 奥日光・丸沼温泉(環湖荘)

費用 約2万5000円

行動 6月25(土) 新宿駅⇨(関越)

⇨赤城小沼付近駐車場―地藏岳往復(山頂付近で講師から覚満淵・小沼・大沼の湖沼生成過程などの説明)

6月26日(日) 環湖荘(バス)

Ⅱ赤沼茶屋―小田代原―弓

張峠―西ノ湖―千手ヶ浜

(フェリー)Ⅱ菖蒲浜―竜頭

ノ滝(待機バス)Ⅱ新宿(解

散)

◆第10回 三ツ峠アツモリソウ保

護活動募集案内

主催 東京多摩支部 自然保護委

員会

日時 6月19日(日)〜20日(月)

集合 富士急・河口湖駅 9時30

分

行程 河口湖駅(バス)Ⅱ三ツ峠登

山口―三ツ峠山荘(午後保

護活動)。

《宿泊組》

山荘に宿泊(夕食前後に山荘主

人の中村さんの講話)。翌20日早

朝、開運山頂周辺散策、朝食後、2

コースに分かれて下山。Aコース

は往路を下山、10時20分のバスに

て河口湖駅へ、解散。Bコースは

府戸尾根を経て寿駅へ、解散。

《日帰り組》

16時ごろ往路を下山、タクシー

で河口湖駅、解散。

費用 宿泊組Ⅱ1万円(宿泊費・

協力金)、日帰り組Ⅱ1000

0円(協力金)。

募集人員 10〜15名

申込み・問合せ 岡義雄

✉okayoshiho@ozio.jp

TEL 090-2140-5057

締切り

6月7日(火)

申込み時に氏名、性別、年

齢(6月19日現在)、支部名、

会員番号、携帯番号、山岳

保険加入先、本人連絡先(住

所、携帯番号、メールアドレス、

緊急連絡先(氏名、

続柄、電話番号)を明記。以

下2項目はそれぞれ二者択

一のこと ①宿泊組または

日帰り組 ②宿泊組のみ下

山コース(AまたはB)。申

込み者には後日、詳細案内

を送付いたします。

◆第28回山岳写真展「心に映る

山々」

アルパインフォトクラブ

《酒田巡回展》

当クラブでは毎年、写真展を開

催し、会員が撮影した国内外の山

岳写真40点を全紙で展示していま

す。東京展はすでに終了しました

が、巡回展として酒田展が6月に

開催されます。

会期 6月15日(木)〜23日(木)

会場 山形県酒田市・酒田総合文

化センター TEL 0234-

24-5780

問合せ 志田郁夫 TEL 090-2

996-1392/川嶋新

太郎 TEL 090-9369-

2345

◆千葉潔展

日時 6月10日(金)〜29日(木) 11時

〜18時、最終日17時まで

(16、23日休席)

会場 ギャラリーいろはに (堺

市甲斐町東1丁2番29号

山ノ口商店街(アスティ山

ノ口)中ほど TEL/FAX 07

2-232-1682 阪堺

線・宿院駅から徒歩2分/

南海本線・堺駅から徒歩12

分/阪神高速・堺出口から

車5分

追加訂正

会報4月号15ページ、「寄附金

および助成金などの受入報告」中、

滝川清会員の寄附目的の項に「永

年会員からのご寄附」を追記させ

ていただきます。

◆編集後記◆

●若き日、足尾山地の根本山と熊

鷹山に登っていますが、その折気

になったのが、南西にある「鳴神

山」という山名でした。それから幾

星霜、先月思い立って登ってきま

した。この山にだけ咲くカッソ

ウと出会うには少し早かったの

ですが、山頂で見事なアカヤシオ群

落が出迎えてくれました。この山

の自然保護を願って努力されてい

る、地元の方々に感謝です。

●鳴神山は雷神岳や嶽山などの別

名を持つ信仰の山です。「鳴神」と

は雷のことですから、かつては里

人たちにとって雨乞いの山だった

のではないのでしょうか。時代は移

り人々の願いごとが変わっても、

篤い「祈りの心」をもつてすれば、

この神の山は、きっと応えてくれ

ることでしょう。

(節田重節)

日本山岳会会報 山 924号

2022年(令和4年)5月20日発行
 発行所 公益社団法人日本山岳会
 〒102-0081
 東京都千代田区四番町5-4
 サンビューハイツ四番町
 TEL 東京(03)3261-4433
 FAX 東京(03)3261-4441
 発行者 日本山岳会会長 古野 淳
 編集人 節田重節
 Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
 印刷 株式会社 双陽社